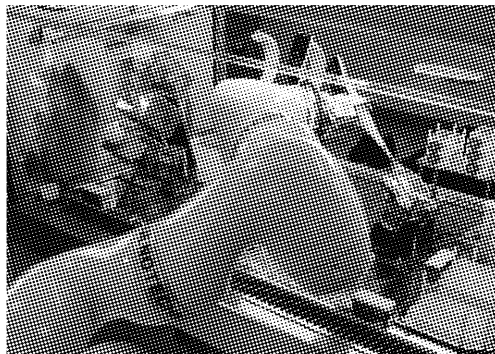


# ウエノテクニカ 医療関連ロボ参入

## 溶液サンプル自動製作

遠隔操作 バイオ・研究所向け

【前橋】ウエノテクニカ（群馬県桐生市、松井真二社長、0277・52・0546）は、医療関連ロボット事業に参入する。バイオ医療の研究などで行われる溶液サンプル製作が自動でできるロボットを開発した。2016年の年明けにも群馬県内の研究機関で実証試験を始める。展示会などを通して研究者の作業負担を軽減できる性能を訴求し、民間も含めた研究所での導入を狙う。16年中の初採用を目指す。



●**ロボット**

今回、開発した「ロボ・ベンチロボット」は、人の左右の手の動きを再現できるのが特徴。小型カメラを搭載したロボットハンドが

電動式ピペットをつかみ、溶液を容器に注入

ピペットやフラスコを把持。一方、ターントールで容器を動かす。容器内の溶液を攪拌する。7軸多関節のアームで薬液の抽出、注入などの作業を行う。

電動式ピペットに通信チップを搭載し、ワイヤレス化により遠隔で、きめ細かい制御が可能にした。研究員自らが手作業で行う研究

サンプルの製作を自動化でき、研究の効率化に役立つ。サイズは長さ1600mm×幅1500mm×高さ1800mmのコンパクト設計。ホコリなどの混入

を防ぐ実験台（クリーンベンチ）プラスアルファのスペースがあれば作業できる。ベンチ内のキットを入れ替えれば、ほかの研究に転用できる。大手メーカーが手がける大がかりなロボットシステムに比べて導入費が約3分の1で済むという。

受注の際は現行モデルをベースに、動作スピードなど顧客の要望に応じてカスタマイズ化し、提供する考え。